第 7 回アフリカ開発会議横浜開催連携事業

TICAD7 パートナー事業

ドキュメンタリー短編映画
「ダイヤモンドの来た道
～シエラレオネ　採掘現場の声～」
映画感想文コンクール

入賞作品集

2019 年 12 月

主催　特定非営利活動法人ダイヤモンド・フォー・ピース

目次

本映画感想文コンクールについて 3
協力、協賛、後援団体のご紹介 4
入賞者一覧 5
本映画制作者からのメッセージ 7
審査委員長からのメッセージ 9
審査員講評 11
入賞作品 17
　小学生部門　最優秀賞　塚原佳那子 18
　小学生部門　優秀賞　大橋悠里 19
　小学生部門　優秀賞　鈴木心桜 20
　中学生部門　最優秀賞　岡本有布 21
　中学生部門　優秀賞　石川颯人 22
　中学生部門　優秀賞　藤岡和也 23
　高校生部門　最優秀賞　内田かぐ美 24
　高校生部門　優秀賞　　竹内綾 26
　高校生部門　優秀賞　吉田智咲 28
　高校生部門　優秀賞　横畑実鈴 30
　大学生部門　最優秀賞　苅屋拓海 32
　大学生部門　優秀賞　柳沢将伸 34
　大学生部門　優秀賞　佐々木雪乃 36
　大学生部門　優秀賞　于佳彤（ウ・カトウ） 38
　大人部門　最優秀賞　辻本梨紗 40
　大人部門　優秀賞　小林茉樹 42
　大人部門　優秀賞　グエン　タイー　ハー 44
　英語部門　最優秀賞　John Lee Candelaria 46
　英語部門　優秀賞　Harsh Vemuri 48
　英語部門　優秀賞　Afzal Muhammad Tauseef 50

本映画感想文コンクールについて

本映画「ダイヤモンドの来た道　～シエラレオネ　採掘現場の声～」（原題「Voices from the Mine」）はバース大学（英国）のロイ・マコナシエ氏とサイモン・ワーフ氏が製作し、2018 年に公開した短編ドキュメンタリー映画です。

主催団体である私達ダイヤモンド・フォー・ピースは、シエラレオネの隣国リベリアで、手掘りダイヤモンド採掘者の自立支援活動を行っています。この映画で描かれている現実は、私達の活動地で採掘者達が置かれている状況に酷似しています。

オンラインで公開されたこの映画を見た私達は、「この映画を日本にいる人々にもぜひ観て頂きたい」と思い、製作者に連絡し日本語字幕版を製作する許可を頂きました。日本語字幕製作は私達にとって初めての経験で、普段行っている翻訳とは違う難しさがありました。1 年弱の時間をかけ、翻訳ボランティア、字幕監修者、動画編集ボランティアの協力を頂き、2019 年 4 月に日本語字幕版を完成し公開しました。

この映画を一人でも多くの方に観て頂きたいと考え、本映画感想文コンクールを企画しました。今年は 3 年に一度開催されるアフリカ開発会議が私達の拠点である横浜で開催されることから、横浜開催連携事業として本コンクールを開催させて頂きました。

本コンクールは、多くの方のご協力・ご支援を得て開催することができました。
協力、協賛、後援を頂きました団体、大学、企業の方、本当にありがとうございました。また、学校・団体・企業で映画を上映してくださった方々、映画を観てくださった方々、感想文を書き応募してくださった方々、ありがとうございました。みなさまのお陰で、本コンクールを成功させることができました。

映画「ダイヤモンドの来た道」は、オンラインでどなたでも鑑賞可能です。これからも学校の授業やダイヤモンドに興味を抱いた方々に鑑賞して頂くことで、ダイヤモンドの課題を知り、解決方法を考え行動を起こすきっかけになればと考えています。
【オンライン鑑賞 URL】
https://vimeo.com/335148904/3b7a1120b1

2019 年 12 月
主催　特定非営利活動法人ダイヤモンド・フォー・ピース
代表理事　村上千恵

協力、協賛、後援団体のご紹介

本コンクールに協力、協賛、後援いただきました方・団体・企業を、以下に紹介させて頂きます。この度は誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

協力	特定非営利活動法人　Alazi Dream Project 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI) 教授　伊藤武志 公益財団法人　五井平和財団 東京外国語大学教授　伊勢崎賢治 特定非営利活動法人　World Theater Project バース大学（英国）
協賛	一般財団法人　日本国際協力システム ザ・ボディショップ
後援	JICA 横浜

本コンクールは、一般財団法人　日本国際協力システムの NGO 支援事業助成金により開催しましたことを申し添えます。

入賞者一覧

本コンクールの入賞者、作品名、学校賞受賞校を以下にご紹介いたします。

【小学生部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	塚原　佳那子さん	みんなで考えようダイヤモンドのこと
優秀賞	大橋　悠里さん	人間の弱さに打ち勝とう
優秀賞	鈴木　心桜さん	一日一日を大切に

【中学生部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	岡本　有布さん	シエラレオネ、未来への展望
優秀賞	石川　颯人さん	持続可能な環境づくり
優秀賞	藤岡　和也さん	「ダイヤモンドの来た道」を読んで

【高校生部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	内田　かぐ美さん	シエラレオネの問題から学んだこと
優秀賞	竹内　綾さん	ダイヤモンドの輝きの裏で
優秀賞	吉田　智咲さん	ダイヤモンドの来た道を観て
優秀賞	横畑　実鈴さん	ダイヤモンドは誰のものなのか

【大学生部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	苅屋　拓海さん	～ダイヤモンドが通るべき道～
優秀賞	柳沢　将伸さん	ダイヤモンドの来た道を見て
優秀賞	佐々木　雪乃さん	「ダイヤモンドの来た道～シエラレオネ採掘現場の声～」 感想
優秀賞	于　佳彤さん	「ダイヤモンドの来た道～シエラレオネ採掘現場の声～」 を見て思ったこと

【大人部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	辻本　梨紗さん	ダイヤモンドの輝きの向こう側。
優秀賞	小林　茉樹さん	ダイヤモンドの新しい道
優秀賞	グエン　タイ　ハーさん	利益のみを追求する

【英語部門】

賞	氏名	作品名
最優秀賞	John Lee Candelaria さん	The Curse of Sierra Leone’s Diamonds
優秀賞	Harsh Vemuri さん	A sign of wealth, a sign of strife
優秀賞	Afzal Muhammad Tauseef さん	A Sad Story of African Diamonds

【学校賞】

学校名	学科、ゼミ、クラス等
大谷高等学校	グローバルクラス
光ヶ丘女子高等学校	国際教養科選択科目「地域研究Ｂ」
群馬工業高等専門学校	２年２組、２年５組
鈴鹿大学	初年次セミナー（2019 年度 2 年生）
第一工業大学	工学部環境工学概論クラス
獨協大学	
東京工業大学	日本語・日本文化科目

本映画制作者からのメッセージ
Message from the Movie Producers

'*Voices from the Mine'* is based on the work conducted during a two-year research project supported by US-based philanthropic organization *Humanity United*. The film reveals the significant disparities in wealth that exist between those at the top of the artisanal diamond value chain and those toiling the ground to extract diamonds at the bottom in Kono District, Sierra Leone. One of the main aims of the film has been to raise awareness of how the perpetuation of the informal nature of the sector maintains these inequalities, by telling the personal stories of those involved.

We were very pleased to learn that *Voices from the Mine* has been so well received in Japan, and we enjoyed reading some of the essays that were inspired by the key themes raised in our film. We were also impressed by the level of passion and the concerns raised by many of the authors. We very much hope that this energy can play a role in positive change, particularly by shaping consumer awareness of the ethical issues that concern the extraction of diamonds in West Africa. With support from organizations such as *Diamonds for Peace*, we hope that our film will help to sensitize Japanese people on some critical issues that concern artisanal diamonds and encourage them to think carefully about their role and responsibility as consumers.

Roy Maconachie and Simon Wharf, University of Bath, UK
Producers of *Voices from the Mine*

（和訳）
映画「ダイヤモンドの来た道」は、米国に本拠を置く慈善団体ヒューマニティ・ユナイテッドの支援を受けた２年に渡る研究プロジェクトの中で製作したものです。この映画は、手掘りダイヤモンドのバリューチェーンのトップにいる人々と、シエラレオネ共和国のコノ地区でダイヤモンドを採掘するために苦労している最下層の人々との間に存在する富の大きな格差を明らかにしています。この映画の主な目的の一つは、関係者の個々の物語を伝えることによって、手掘りダイヤモンド業界にはびこる闇採掘や闇取引が大きな格差をそのままにし続けていることについて、人々の意識や関心を高めることにあります。

「ダイヤモンドの来た道」が日本において多くの人々に鑑賞されたことを知り、とてもうれしく思っています。また、映画で取り上げた重要なテーマについて書かれた英語の感想文も楽しく拝読しました。感想文の筆者達が示した情熱や関心にも感銘を受けました。西アフリカのダイヤモンド採掘に関する倫理的問題への消費者意識を高めることによって、みなさんの情熱が改善にむけた変化をもたらすことを切に願っています。ダイヤモンド・フォー・ピースなどの団体との協働により、私たちの映画が手

掘りダイヤモンド業界における重要な課題について日本の人々の関心を高め、消費者としての役割と責任について深く考える後押しになることを願っています。

「ダイヤモンドの来た道　～シエラレオネ　採掘現場の声～」制作者
バース大学（英国）
ロイ・マコナシエ、サイモン・ワーフ

［補足情報］
本映画感想文コンクール英語部門の審査には、映画制作者両名にもご協力頂きました。

採掘者達に話しかけるロイ・マコナシエ氏

Roy talking to miners

シエラレオネで子ども達に囲まれるサイモン・ワーフ氏

Simon surrounded by children in Sierra Leone

審査委員長からのメッセージ

私達ダイヤモンド・フォー・ピースは、「ダイヤモンドが人道・環境配慮の上、採掘・カット・製造される社会」をめざして活動しています。この活動を始めたきっかけは、私が婚約指輪をもらった時、ダイヤモンドに興味を持ち調べてみたところ、ダイヤモンドのきらきらしたイメージとはほど遠い、紛争の資金源、児童労働、貧困等の問題があることを知ってしまったことがきっかけです。

私達は映画の舞台となったシエラレオネの隣国、リベリア共和国で手掘りダイヤモンド採掘者達を対象に自立支援活動を行うのと同時に、日本や海外の消費者を対象とする啓発活動を重要な活動と考え取り組んでいます。というのも、何かを買うという行為は、その製品を製造・販売している企業を応援する「投票」行為です。私達消費者は、私達が思っているより、企業や業界に対して大きな影響力を持っています。本映画に描かれている問題を解決するには、私達消費者がまずその問題について知り、その解決を企業や業界に求めていく必要があると考えているからです。

応募いただいた感想文を読み、書き手のみなさんがそれぞれの考えや立場から思うことを自由に述べ、多くの方がダイヤモンドの課題について調べ、どのように解決できると思うかを提案してくださいました。

多くの感想文に、「ダイヤモンドにこのような課題があることを、多くの人に伝えたい」という記述があったことが印象的でした。物事の解決には、まず問題を知る必要があります。次に解決法を考え実行する必要があります。感想文に書いた解決法をぜひ実行してください。一人一人の力は小さくても無力ではありません。私達消費者の力が結集することで、この課題を解決する力となるはずです。

誰もが人生の中で、社会における様々な問題を知る機会があります。今回、感想文を書き応募してくださったみなさんには、これらの課題を自分事として捉え、解決法を考え、実行する力があると信じています。社会における自分の役割は何かを考え、解決のために皆がそれぞれの持ち場で努力する世の中であれば、よりよい社会を将来の世代に残していくことができるでしょう。そんな世の中にしていきましょう。

審査委員長
特定非営利活動法人ダイヤモンド・フォー・ピース
代表理事　村上　千恵

リベリアの手掘りダイヤモンド採掘組合のリーダー達に
コーチングを行う村上

審査員講評

ここ数年、シエラレオネでの現地事業を現地スタッフに任せ、第一子出産に続き第二子（年子）妊娠に伴い日本で生活していると、世界で起こっていること・情報からいかに私たちが取り残されているかをひしひしと感じます。ニュース番組では、芸能人や官僚の不祥事のことばかり…例えば、意識して「Sierra Leone news」などと英語で検索しなければ、世界で起こっている現状をリアルタイムで知ることはなかなか難しいと感じます。

そんな中、この「ダイヤモンドの来た道」を視聴になった多くの皆様にとって、世界で起こっている現状は決して他人事ではなく、内戦が終わり 18 年が経過したシエラレオネで現在も起こっていることとして、意識して知るひとつのきっかけになったのではないでしょうか。感想文を寄せていただいた多くの皆様が、現状に衝撃を受けるだけではなく、解決策を提案し、自分にできることを考え行動していく姿勢に、感銘を受けました。

また、私自身、NPO としてシエラレオネでの様々な事業に関わっていく中で、忘れていた大切な視点を思い出すことができ、今回とても貴重な機会を頂き、審査員という経験をさせていただいていることに、大変感謝しております。

改めて、この度は「ダイヤモンドの来た道」の視聴いただき、また感想文コンクールにご応募いただき、誠にありがとうございました。

特定非営利活動法人 Alazi Dream Project
代表理事　下里　夢美

シエラレオネにて、アフリカ布を使った雑貨販売事業を一緒に行うテーラーさんと下里氏

審査員講評

映画感想文コンクールへの応募、本当にありがとうございました。拝読したすべての感想文に、とても感銘を受け、勇気をいただきました。感想文を書いて頂いた方、感想文を書かなかったけれども映画を見て頂いた方、多くの方のご理解、お気持ちや意思が、映画の舞台になったシエラレオネやダイヤモンド・フォー・ピース（DFP）の活動への応援であると感じました。難しい状況にあって、その解決もままならない状況でもなお、少しでも現状をよくするために考え行動し、よい将来をつくろうと努力している多くの人々に希望を与えてくださるものです。

印象にのこる言葉をすこしあげさせてください。

「いままで知らなかった」という言葉からは、映画にある情報はもちろん、インターネットや書籍などから実際に起こっている事実を知ってよかった、「輝きの先を見る」ことが大事だとの指摘をいただき。さらには、ダイヤモンドは目でみることもあるが、実施に起こっているのはアフリカという縁遠い場所であることや、自分でできることはなにもないという無力感から、心の壁をつくり、耳を塞いで自分を自分で部外者にしていたのではないか。社会は多くの人々のおかげ、互助でなりたっているのに、この問題において、自分の幸せが他の方の不幸の上にたっているのではないか、自分が搾取へ加担しているのではないか。

発生している問題については、長い複雑なサプライチェーン、権力の腐敗、搾取や不平等分配、紛争や子供兵の問題、農業より鉱山労働を選ぶ環境、環境破壊、児童労働や修学できない問題、貧困や格差の固定化、労働者権利・人権・自由の侵害、自己利益のみの追求が生み出す問題、適正な取引のための制度があってそれがうまく運用できない問題などさまざまな指摘があり、問題の構造や原因を紐解いている方もいらっしゃいました。

そして、このような問題の解決のためには、正しく消費者に伝えて購買行動で投票すること、鉱山だけでない新産業の創出、正当な賃金を払う労働環境の確保、サプライチェーンのトレーサビリティー確保、利益配分等のルールや制度・システムづくり、運で決まるのではない機会の均等の確保、適正な労働の対価・労働の価値の重視といったことが挙げられていました。国家間や市民間で連携して世界から訴えかけることも大事だが事実を知った上で身近な人たちに「自分で伝える」、「自分ができることを探す」コメントも多くありました。

みなさまの感想文から、私たちは、「ひとり一人が意志をもって、今不可能に見えてもありたい未来像をつくって、そして不可能なことを可能にするために、みんなで行動をし続ける大切さ」を示していただきました。心より感謝いたします。

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）
教授　伊藤　武志

第 7 回アフリカ開発会議(TICAD7)公式サイドイベントにて、
参加者のコメントを読上げる伊藤教授

審査員講評

この度は「ダイヤモンドの来た道」の感想文コンクールにご参加いただき、ありがとうございました。同じ映画からでも、引き出される感想は様々であり、多様性がある様々な学びを受け取れる素晴らしさと大切さを、審査させていく中で改めて痛感しました。また、多くの感想文が、シエラレオネの現状理解にとどまらず、そこから一歩ふみこみ、その現状を少しでも改善させるために何ができるだろうという視点まで提示されていた点に感銘をうけました。なぜなら世界には様々な課題がありますが、それを人ごとにせず、自分に何ができるかという視点で次なる一歩を見つけ行動する行為こそが、その問題解決に近づく道だと思うからです。皆さんの感想文の多くにはその視点が入っており、映画をみて、問題を自分ごととして受け止めているあり方が素晴らしいと感じました。

今回読ませていただいた作品は、どの作品も皆さんの思いが詰まっていて、甲乙がつけがたく、審査するのを放棄したい気持ちになるくらい、素晴らしい作品ばかりでした。コンクールは終わりますが、どうか皆さんがこの感想文を書くときに大切にされた、自分は何ができるのだろうという視点で世界の状況を見る目をさらに育んでいただきたいと思います。なぜなら、シエラレオネが抱えている問題と同じで、世界で起きている事象は他人事ではなく、自分のあり方や生き方と密接に関わっていることが多いからです。

この度は、世界に目を向け行動しようと一歩踏み出しこのコンクールに作品を応募していただき本当にありがとうございました。皆さんの勇気ある一歩は、作文を書かれた皆様のみならず、審査させていただいた私たち、そして皆さんの作品を読まれる多くの方々に大きな影響と気づきを与えることになります。素晴らしい作品をありがとうございました。今後の皆様のご活躍を陰ながら心から応援しています。

公益財団法人　五井平和財団
常務理事　川村　真妃

インドで平和の大切さについて話をする川村氏

審査員講評

講評した作品のすべてにわたって、この映画をきっかけに、私たち日本人が日常生活で接するダイヤモンドが、ダイヤモンドになるまでの”仕組み”をそれぞれ独自に考え、そして自発的に映画以外の情報を探し、更に考えを深めた皆さんの努力を垣間見ることができ、この国（シエラレオネ）に長く家族と暮らした人間として、たいへんうれしく思います。

本当に、全ての作品が甲乙付け難いものでしたが、やはり僕はこの国に愛があり、この問題をなんとかしたいと持っている人間の一人ですので、この問題の現状を認識すること以上の具体的な行動、それも日本にいても始められる実現性のある行動の提案がある作品を評価させていただきました。みなさん、ご苦労様でした。

東京外国語大学
教授　伊勢崎　賢治

第 7 回アフリカ開発会議(TICAD7)公式サイドイベントにて、
シエラレオネでの活動を説明する伊勢崎教授

審査員講評

すべての物事は、「知る」ことから始まるのだと思います。
今回の映画感想文コンクールに参加されることで、シエラレオネ共和国や手掘りダイヤモンドについて知るきっかけになった方も多いことと思います。

読書感想文を拝読していて感動したのは、映画を観て「知った」後に、ご自身でもこの課題について「調べて」いる人の多いことでした。そしてさらに、「行動を起こそう」としている方もいることに感銘を受けました。

10 年後、20 年後、「知った」ことをきっかけに動きだした皆様の行動が実を結び、「ダイヤモンドの来た道 ～シエラレオネ 採掘現場の声～」で描かれた現実が遠い過去のものになるよう祈っています。

特定非営利活動法人 World Theater Project
理事長　教来石小織

カンボジアで映画を観る子ども達を見ている教来石氏（写真中央）

入賞作品

小学生部門　最優秀賞　塚原佳那子
みんなで考えようダイヤモンドのこと

わたしがようち園生だったころ。牛にゅうパックにこどもの写真がのっていました。「これはシエラレオネという国のこどもたちで、この牛にゅうをかうとシエラレオネにお金をきふしてくれるのよ。」と、お母さんが、教えてくれました。シエラレオネはアフリカにある国で、食べ物や薬が足りなくて小さいこどもがたくさん死んでしまっているそうです。写真のこどもはわたしと同じくらいの年にみえました。それからシエラレオネは、わたしにとって一番気になる国になりました。

夏休みに、お母さんがわたしにシエラレオネのえい画があることを教えてくれました。「こどもにはむずかしいかもしれないけれど、お母さんといっしょに見てみようよ。」そしてわたしは、この映画をみました。

このえい画では、イギリスのバース大学の先生たちのチームが、シエラレオネのダイヤモンドについて調べています。さいしょに、わたしはシエラレオネでダイヤモンドがとれることにとてもおどろきました。ダイヤモンドってとても高いから、シエラレオネの人は本当はお金持ちなんじゃないのかな。ところがえい画をみていくと、そうではないことがすぐにわかりました。シエラレオネの人がダイヤモンドをほる仕事をしても、たくさんのお金はもらえないのです。一日はたらいても五十円しかもらえない時もあるなんて、じゃあだれがお金もうけをしているの？しゅっし者達はお金もうけをして、ダイヤモンドをほっている人たちはお金が少ししかもらえないのは、とても不公平だと思いました。

映画には学校に行くお金をかせぐためにはたらいている少年もいました。「学校に行く」というあたりまえと思っていたことができない人がいることに、わたしはとてもおどろきました。また、ダイヤモンドをほるために森をこわして、ほり終わったあともそのままだそうです、ちゃんとあなをうめて木を植えてくれればいいのに、森がどんどんなくなったら、生き物達が住めなくなってしまうのに。とてもきれいなダイヤモンドに、こんなにたくさんの問題があるなんて、わたしもお母さんも、このえい画を見るまで知りませんでした。

わたしは今でも牛にゅうパックの写真を持っています。とてもきになったのでずっととっておいたのです。今ごろこのこども達も小学生になっているのかな。それとも、学校には行けずにダイヤモンドをほっているのかなあ。今のわたしにできることは何もないかもしれません。でもシエラレオネで起こっていることを、みんなが知ってみんなで考えることが大切なのだと思います。わたしが大人になってダイヤモンドを買うことがあったら、シエラレオネの人達にちゃんとお金をはらってくれて、みんなが幸せになれるような、そんなダイヤモンドをえらびたいと思います。

小学生部門　優秀賞　大橋悠里
人間の弱さに打ち勝とう

ダイヤモンドなんて、なかったほうがよかったんじゃないか。それが、ぼくがこの映画を見て、はじめに思ったことでした。前は、ダイヤモンドを見ても、ただきれいだなと思うだけでしたが、ダイヤモンドにかかわるいろいろな問題を知ってからは、ただきれいだなと思えなくなりました。

ゆうふくな人がダイヤモンドを買えるのは、手ぼりさいくつ者のおかげなのに、手ぼりさいくつ者は、とてもまずしいくらしをしていて、学校に行けない子供もいるそうです。そして、一生けん命にはたらいても、ダイヤモンドが見つけられなかったら、お金をもらえないこともあるそうです。ダイヤモンドを見つけた時は、どれほどうれしいだろうかと思いました。

それにくらべて、手掘りさいくつ者のまわりの人たちは、みんな自分のことしか考えてないように感じました。たとえば、大首長が、えらばれた者だけが良い思いをするのが当然だと言っていたけれど、ぼくはそれはおかしいと思いました。もし、ぼくがリーダーだったら、弱い人のこともちゃんと考えてあげたいし、それがえらばれた者のすることだと思うからです。でも、ぼくがそう考えられるのは、ぼくが生活に困っていないからかもしれません。

ぼくは、本を読んで、シエラレオネには前に内戦があって、その戦争はダイヤモンドがあったせいで長引いてしまったことや、たくさんの子ども兵がいたことも知りました。そして、その内戦のせいで、まずしい国になってしまったり、不平等な社会になったことも知りました。

人は、まずしいと、自分勝手になってしまって、他の人のことをやさしい気持ちで考えられなくなって、他の人のものをうばったりどんな手を使ってもお金をほしいと思ってしまう、そういう性質があるんじゃないかと思います。大体の人は、自分によゆうがないと、困っている人のことを考えてあげられないのです。そういう人間の心の弱みが、ダイヤモンドによって出てきたのが、この問題のように思いました。

この問題は、そもそも一人では変えられないので、国や地いきのリーダーの協力はもちろん、ダイヤモンドにかかわっている人みんなが、手ぼりさいくつ者のことを一番に考えていかなくてはいけないと思いました。

小学生部門　優秀賞　鈴木心桜
一日一日を大切に

貧しくても苦しくても働いている、その姿は美しい、登場人物の姿から、そう感じさせられた映画「ダイヤモンドの来た道～シエラレオネ採掘現場の声」。出会ったきっかけは母の勧めとシエラレオネという聞いたことのない場所でどんなことが起きているのか興味が湧いたことだ。

この映画の登場人物は一日一日を大切に、そして必死に生きていた。しかし自分はどうだろう。一日一日を大切に過ごせているだろうか。私は過ごせていないと思う。最近は決められたことや言われたことをやったら一日が終わり、次の日も、また次の日も･･･とどんどん時間ばかり過ぎて行き、新たな進歩ができていなく、人に頼り過ぎだと思った。この映画にでてくる採掘労働者のだれかに頼る訳でもなく、今を必死に生きることに強く心を打たれた。

この映画をみて、心に残った場面がある。それは、採掘労働者の言葉で「政府の汚職や人権侵害、労働搾取にはとても失望している。」という所と「精一杯働いても一日五十円の賃金しかもらえないのに、大首長と出資者の間で問題が発生した場合、大首長は出資者にワイロをもらい、問題を解決する。いつもそうだ。」という所だ。一つ目の言葉はそのせいで貧困の連鎖がどんどん続いて行くので、採掘労働者がなんだか可愛想だと思ったからである。二つ目の言葉は出資者に「大首長に渡しているワイロのお金はどこから出しているのか。」と聞きたいし、そんなお金があるのならば採掘労働者の賃金をもっと家族を養えるぐらいに上げて欲しいと思ったからである。

私はこの映画をみて、これから生活していく上で、新しい目標をつくった。その目標とは「一日一日を大切に過ごし、一日でも無駄な日はつくらない」というものである。私はこれから、この目標とシエラレオネのダイヤモンドの採掘現場の人々の声を忘れずに、これからの日々を、そして未来を一歩ずつ歩んで行きたい。

中学生部門　最優秀賞　岡本有布
シエラレオネ、未来への展望

晴れ舞台である結婚式のイベントで、女性なら誰もが憧れる婚約指輪の代名詞、永遠の輝きダイヤモンド。人を幸せにするはずのダイヤがその裏で密輸や二束三文の買い取りを経ながら店頭に並んだ物だったらどうだろう。

採掘者たちは、泥沼の中を素足で走ることを厭わず、全身泥だらけになり、汗水流しながらダイヤの原石を必死に手作業で探している。だが、そんな彼らは過酷な労働の割に低賃金なため、首の皮一枚で生計を立てている。家族を養うこともままならない。かたや私たちはその苦労を知らずに、輝かしいダイヤを買える境遇にいることによるもどかしさと、苛立ちを感じざるを得なかった。

ダイヤモンドのような鉱物資源の採掘は博打的である。もし、ダイヤが見つからなければ、採掘者たちに賃金が支払われることはなく、また、ダイヤは有限資産であるため、取り尽くしてしまえばシエラレオネの敗政は困難に陥ってしまう。しかも現在、採掘後の土地の埋め立てなくてはならないという法律は形骸化している。権利者は埋め立て料を政府に支払っているにもかかわらず、実施されたことは未だかつてないことに憤りを感じた。

何か打開策はないのか。ここ近年、私たちは、一般的に野菜、果物、肉魚類など食品に関しては、国産か外国産か、国内でも産地場所を確認しながら購入ができる。特に特定の農家や栽培した人の写真を添付することによって、消費者はより安心と信頼ができる。

一方、ダイヤモンドに関しては、選ぶ商品の一つ一つまで詳しく産地や商品になるまでの経緯を明記してあるところは多くはない。だから、我々が食品を納得して買っているように、ダイヤモンドもどこの国で採掘された原石なのか、判断材料の基準の一つになれば、ダイヤの流れがもっと透明になって、装飾品として身につける人たちも納得できる、そして何より密輸が減り、採掘者まで利益分配がされるのではないだろうか。

また、ダイヤの採掘後の枯渇した土地をそのままにせず農業用に開拓できれば、国として利益になると思う。

農業は、毎年栽培できる上、持続可能であり、軌道にのれば安定した収入を得ることができる。

もちろん政府の援助としてそれに従事する専門家の意見、支援の後ろ盾が必要になってくる。開墾、苗付け、栽培、収穫と年数単位の根気のいる作業ではあるけれども、農業とだいやの採掘の二本立ての構想は、長期的にシエラレオネの貧困問題の脱却にも繋がるのではないかと感じた。

中学生部門　優秀賞　石川颯人
持続可能な環境づくり

僕はこの短編映画をみて、疑問に思ったことや、こうしたほうがいいのではいかと感じたことがいくつかありました。

一つ目は、なぜ労働者だけ不平等なあつかいをされなければいけないのかということです。世界中の人々を幸せにできるダイヤモンドを体を張って苦しみながら採掘しているのに、ほとんど利益を得られないほど不平等なことはあってはならないと思います。それなのに、労働者から受けとったダイヤモンドを輸出する企業の方が多くの利益を得ているというのです。このことは今すぐに改善すべきだと思います。ダイヤモンドを送る側よりも、ダイヤモンドを採掘するほうがあきらかに大変なのにお金をもらえないのなら、労働者の貧しく不自由な生活が続いてしまうばかりです。人々の不平等をなくすにはまず、このようなしくみを見直し、だれでも安定して利益を得られるようになる新しいしくみづくりが必要だと思いました、

そしてもう一つ、自分たちに何かできるかを考えました、自分たちにできることは、今いただけている食べ物や資源などを供給してくれている労働者の人たちに感謝をすることです。食べ物や資源などは限られているものであり、誰かが働かなければ利用できないものです。今自分たちが利用できているものは全て、農家の人や労働者の人が体を張っているからこそ存在していて、それによって豊かな生活がおくれているのです。なので、そういった人たちに生活を支えてもらっているということを意識して、感謝の気持ちを忘れないことが大事だと思いました。そうして食べ残しや資源のムダ使いもなくなり、持続可能な社会の実現にもつながっていくのではないかと思いました。

これからの社会と貧困に苦しむ人を救っていくには、誰でも平等にくらせる環境をつくること、資源に感謝することが大切だとこの短編映画をみて思いました、これからの社会のために自分にできることをもっとたくさんみつけていきたいと思います。

中学生部門　優秀賞　藤岡和也
「ダイヤモンドの来た道」を読んで

シエラレオネ共和国と聞いても、どこにあるのか分からず調べてみた。西アフリカの西部、大西洋岸に位置し、北にギニア、南東にリベリアに接している共和国だと分かった。

まず、ビデオの冒頭に、世界最大のダイヤモンド街であるベルギーのアントワープが映り、その後すぐにシエラレオネの町が映し出された。そのあまりにも対照的な風景を見てなんだか恐ろしい気がした。そして今の僕たちとの日常と違いがありすぎて、ピンとこない感じもした。

ダイヤモンドを生産する国と聞くと、きらびやかな感じがするが、シエラレオネは決してそんなことはなかった。

シエラレオネでは、２０万人が採掘労働者で生計を立てている。しかし、採掘に携わる人のための制度が未整備な上、支配的地位の特権乱用や依存などもあり多くの問題があるようだ。

僕はまず、児童労働が気になった。学校に行くお金がない為に、働かなければならない子、親がお金を得るために子供を売り、買った大人に働かされる子。大人に混じって砂利を鉱山から選別場へ運んだり、泥さらいをしたり、自分だったら絶対にできない事だ。もちろんこんな事は、今の僕のまわりにはない、でも、実際にシエラレオネでは現実で、この瞬間も働いているかもしれない。

子どもたちだけでなく、鉱山で働く大人の採掘者も厳しい労働環境におかれている。一日の賃金は平均すると数十円で、家族を養うこともできない。そして借金をして、労働搾取され、極貧状態を抜け出せずにいる。

どうしてシエラレオネの人らちが自分たちの土地で自分たちのダイヤを採掘しているのにその恩恵を受けられないのだろうか。

現状維持を望む利害関係者が最大の問題で政府は目先の利益の事だけを考えず、しっかり採掘制度を整えていってほしい。はじめはなんだかピンとこない気がしていたが、同じ地球上でこんな事が起こっているのは、絶対におかしい。当事者ではない人たちも一緒に考え、支えていかなければならない。そして少しでも早くこれらの状況をなくしていって改善されるとよいと思う。そしてビデオ冒頭のアントワープの町とシエラレオネの町の対照的な風景が少しでも近づけばいいと思う。

高校生部門　最優秀賞　内田かぐ美
シエラレオネの問題から学んだこと

この映画を見る前に、私がシエラレオネについて知っていたこと、国旗のデザインが、日本の某コンビニエンスストアと同じなこと、平均寿命が世界で一位二位を争うほど低いこと。そして、ダイヤモンドなどの鉱物が採れるから、首都のフリータウンという名前のように、アフリカの中では自由で裕福な国であるんだろう、と思っていました。ですが、現実はその私の勝手な予想とは大きく異なるものでした。資源に恵まれた国であるのに、本来受け取るはずの恩恵が一部の権力者によって独占されている。先進国では愛の象徴とされているダイヤモンドはシエラレオネでは欲望の塊とも呼べるものでした。その背景にはまず、複雑に制度化されたサプライチェーンにありました。ダイヤモンドの採掘から販売までに関わるほぼ全ての人が利益を最大化しようとし、末端にいる採掘者が搾取されているのです。不正を働いているか、誰が不正をしているのかを特定することは困難です。事実、私たちはこのようなルートで輸入されたものを、知らずに購入しているのです。そこで私は、末端の労働者が搾取されていないような安全な商品を選ぶことが重要だと思います。ですが、実際それは簡単ではなさそうです。現在、野菜や肉などでトレーサビリティが取り入れられていますが、数は限られています。スーパーなどで生産者の情報を出している所もありますが少ないです。そしてほとんどの消費者は自分から情報を手に入れようとしないでしょう。ましてや外国から輸入されたものはなおさらです。だから私は消費者の責任として、その出荷源やそこでの労働環境を知ろうとする意識が必要だと思います。しかし、販売店も全てを把握していると思いません。なのでフェアトレードのような公正貿易をめざすものを鉱物にもより広く浸透させることが大切だと思います。そして消費者は、買い物はお金の投票であることを忘れずに、安全な商品を買うように心がけるべきです。

ダイヤモンドがあらゆる問題を生むもうひとつの理由として、政府の腐敗が挙げられます。先進国で生きてきた私にとっては、政府が機能しないということは想像し難いものです。国民を守るための国家がその役目を果たせない、むしろ国民を危険にさらしている、というのは信じられません。ですが、政府の職員たちが正しい方向を向いていない状況で、彼らの作ったルールに国民が従うはずがないということはわかります。採掘し終えた土地に元あったように埋めたてるという規則も守られていないし、周辺国への密輸も問題になっています。政府を立て直すのは決して簡単なことではなく、時間もかかると思います。だから他国が手本となって、手助けすることが私は重要だと思います。

私はこの映画を見て、以下の二つのことを学びました。

まず１つ目は、このようなシエラレオネの問題と聞くと、単にそれは労働搾取や政府の腐敗の問題だと思われがちですが、実は環境問題、児童労働、紛争問題などにつながっているのです。これ以外にもあるかもしれません。シエラレオネのことだけでなく、世界中のあらゆる問題が一見無関係と思えるものと間接的につながっているのです。だからこそその解決には様々なアプローチが可能であるのだと学びました。

次に、無知の恐ろしさを実感しました。私は冒頭で映画を見る前のシエラレオネにつ

いて私が知っていたことを挙げました。私は小さい頃から国旗や世界地図に興味があったので、人より知識はあると思っていました。ですが私のその表面的な知識は単なる知識自慢には有効かもしれませんが、私のように間違った印象を持つことにつながる、ある意味少し危ないものです。本当の意味での「知っている」というのは、その情報の背景や問題点を把握して、それを踏まえて世界を見ることができる人だと思いました。そうすれば、まさに私が映画の冒頭のアントワープの映像と終盤のそれとでは全く違うものに見えたように、世界は変わって見えると思います。

シエラレオネの問題、もしくは世界中で起きている問題と、自分には関係ないものと決めつけるのではなく、まずはそれを知ろうとすることです。そうすればそれが自分の生活とどう関係しているかに気づくことができ、自分がその解決に貢献できるかもしれません。もちろん、全ての人が同等の利益を得ないというのは難しいでしょう。ですが、その差を縮めることはできると思います。世界中の１人１人がそんな志を持って行動したならば、世界は本当の意味で幸せなものになると私は信じています。そしてそのために、まずは私自身が行動をしていきたいと思います。

高校生部門　優秀賞　　竹内綾
ダイヤモンドの輝きの裏で

ダイヤモンドとは誰でも知っている光り輝く宝石である。輝くものは「まるでダイヤのよう」とか、未知の可能性を秘めていれば「ダイヤの原石」と例えられるほどの輝きの象徴である。婚約指輪の８割がダイヤモンドであるのも、人々が魅了される石である証拠なのだろう。その輝く宝石の裏側で辛く悲しい現状があるなどとは考えたこともなかった。

ダイヤモンドの原産地であるシエラレオネの現実は、人間の欲や権力の不平等な関係から起こるひどいものであった、コノ県では約 20 万人もの人々がダイヤの採掘労働で生計を立てているという。次から次へ続いていく人々のインタビュー映像は、彼らの抑えきれない心からの叫びに見えた。ある人は家族を養うために、またある人は学校に戻りたいために、地道な採掘に取りかかるのだ。給料は一日５０円の証言に思わず言葉を失った。何十万、何百万という値段で売られるダイヤモンドの人件費が一日たったの５０円とは。支配者に横取りされるのはわかっていても、それでも必死に見つけるしかないのだ。ある労働者の言葉が深く印象に残っている。「自分で自分を守れないとすべてを失うことになる」コノ県においてすべてを失うことは、本当に何もなくなってしまうことである。彼らにとって今日を生き抜くことはダイヤ採掘であるのだ。ひどい貧困の中で、他になすすべがない。どれほど苦痛な思いで日々生き抜いていることだろうか。

歴史上何百年も前のことではなく、現在なのである。同じ地球上に住んでいてこれまで知らずにきた自分が腹立たしくなった。もっと知りたくなり「ブラッドダイヤモンド」という関連映画を見つけてすぐに見た。目を覆いたくなるシーンが何度もあったことだろう。ダイヤモンドを支配したいがために数えきれない多くの人々が殺された。川底からすくい上げた小石の山から見つけ出されるダイヤモンドの原石。欲に目がくらんだ者たちは、ダイヤ以外の小石を捨てるのと同様に人の命を扱うのだ。未来に夢のある子どもたちには、銃で人々を襲うことを洗脳する。こんな無秩序な現実が許されるわけがない。

この問題を解決するがために、キンバリープロセスという、紛争ダイヤ取引を根絶するための認証制度がその後できた。しかしこの内容に多くの問題があった。採掘労働者の健康や労働環境など労働搾取の幅広い問題が対象になっていないこと、加工前のダイヤモンド原石にしか適用されず、その後の追跡はないことなどがある。結局は表面上の制度に終わってしまっているのである。未だに違法な取引が行われている現実があるのだから、至急に次ぎの対策を打たなければ、何も解決されない。人間が後付けしたダイヤの価値であるのに、これほど人の心を狂わせてしまうのかと思うと、ダイヤモンド自体が恐ろしくなる。ダイヤモンドの取り合いによって殺されてしまった人々の悲劇は、今何につながっているのだろうか。激しい内乱の過去を抱えながら、現地の首長や仲介者、それぞれの立場から聞こえたのは「私のダイヤだ」という声だった。海外のダイヤモンドを売る店も含め、欲にあふれすぎてしまっている。

神からの恵みであるこの輝かしいダイヤモンドを人々の欲で取り合っていてよいの

だろうか。それは消費者である私たちも例外ではない。ダイヤモンドの原石はどこでも採れるものではないのだから、この恵みをもっと大切に扱っていくべきだと思う。現在は問題解決のために活動する機関や企業がある。彼らは、シエラレオネの問題には長期的な視点が必要で、現場の労働者の生活を第一に考えるべきだと言う。その通りだと思う。そしてそのために働かなければいけないのは生活に余裕のある私たちだと思う。私たちがジュエリーとして、ダイヤモンドの輝きだけに目を輝かせているうちは何も変わらないだろう。インタビューに映るマイフェアダイヤモンド機関の女性の右手に輝く指輪を見て、そんな気がした。

コノ県の労働者の存在をまだ知らない人もたくさんいるだろう。私がそうであったように、知らなければ関心は持てない。まずは一人でも多くの人に世界で起きている問題を知ってもらい、関心を持ってもらうことが重要だと思う。どんなに制度が整っていようが、人々が無関心でいたら、また形だけの制度で終わってしまうからだ。

ショーウインドーに一層美しく並べられたダイヤと、その先に見える赤土がむき出しの採掘作業場。これらが平等に結びつくときが少しでも早く訪れてほしいと心から願う。コノ県の人々が自ら採掘したダイヤモンド原石を、ダイヤの指輪として身に着け、楽しめる日が来るまで、私たちは今の問題から目をそむけてはならない。

高校生部門　優秀賞　吉田智咲
ダイヤモンドの来た道を観て

ダイヤモンドと聞くと、私はそれを身に付けた人々をイメージします。最近よくフェアトレードという言葉を耳にしますが、その言葉が連想されるのはカカオなどであり、同じような問題がダイヤモンドにも起こっているとは知りませんでした。

この映画を見て、手掘り採掘者の状態、そしてダイヤモンドのサプライチェーンを知り、大きな衝撃をうけました。

高価な宝石であるダイヤモンドの裏側には様々な問題がひそんでいます。例えば人権問題、児童の労働問題、環境、生態系問題、紛争問題などです。人権問題では、効果なダイヤモンドの発掘に相当する、正当な賃金が払われておらず、労働者が貧困から抜け出すことが出来ません。児童労働問題では、子供たちが重労働を強制されることにより、映画の舞台となったシエラレオネでは成人識字率が 32 パーセントと大変低く、学校に通えていません。環境問題では、発掘後土地が荒廃し生態系などに多大な影響を与えています。紛争問題では、ダイヤモンドの利益が紛争やテロの資金源にされています。

これらの大きな問題はすべて、フェアなダイヤモンドの取引によって解決されますが、現状では解決されておらず、様々な問題が深刻化しています。

この映画を見て、私達と同じ位の年の子供が外国では重労働をしているということ、そしてその重労働は正当な賃金が支払われず、貧困から抜け出せないということに特にショックを受けました。私は今年アルバイトを始め、自分でお金をかせぐことの大変さを身を持って知りました。また、日々のスマートフォンの使用代だけは自分で支払うことになり、よりお金の大切さ、重要さを痛感しました。

日本では、「正当な賃金を払う」ということ、そしてお金をかせげる年齢に制限をかけるなどのルールがあり、私達はそのルールの中で働き、お金を頂いています。これらのルールのおかげで労働者の最低限の生活は守られてもいます。しかし、シエラレオネなどの国々にはそのルールがなく、無法地帯の中で労働し、正当なお金をもらうことも出来ません。これがもし日本であれば、「そんな働き口はごめんだ！」と私達が拒むことができますが、シエラレオネの人々には不当な働き口、不当な支払いを拒む権利、選択肢すらないのです。

このような現実を少しでも良くするために私達が出来ることは何でしょうか。私達はまだ多くのお金を使用することは難しく、実際にフェアなダイヤモンドを購入することはほぼ出来ません。考えてみた結果、私達はフェアなダイヤモンドを支援する大人の人々を応援することが出来ると思いました。この応援とはただ頑張れ、と声を上げるだけでなく、ダイヤモンドの現状や問題をより多くの人々に伝え、知ってもらうということです。

私達は直接的にこの活動を支援することは出来ませんが、私達が多くの人々に伝え、知ってもらうことで間接的に力になることは出きます。まず、知ってもらう、このことが何よりも大切だと思うのです。

今後、私達が世間に伝えられることで、少しでもダイヤモンドがフェアに取引され、

そして労働者の抱える多くの問題が改善されることを願っています。

高校生部門　優秀賞　横畑実鈴
「ダイヤモンドは誰のものなのか」

道に面したショーケースの中を、人々は品定めするようにみつめている。そこには、きらびやかなダイヤモンドの装飾品が収まっていた。ダイヤモンドはショーケース内の照明をうけ、幾筋にも反射し、足を止めた歩行者の顔を淡く照らしている。

おそらく、先進国ならどこでもみることのできる光景だ。この映画内ではベルギーの光景として映っていたが、ここ日本でも、日常的にみられる場面である。しかし、このように多くの人々の憧れである、美しいダイヤモンドの辿ってきた道について、想いを馳せる人は決して多くはない。そしてそれは、私も同じだった。

発展途上国で行われている労働者の搾取について、私は知っているつもりになっていたのかもしれない。この映画を観て、真っ先にそう思った。それどころか、私は貧困が生まれる構造というものについて、実質的な理解ができていなかった。だから、自分がその構造に加担しているかもしれない、などとは微塵も考えていなかった。けれども、全ての人が自分の事だけを考えて利益を追求すれば、そのしわ寄せは言うまでもなく末端の労働者にいくだろう。その結果出来上がった、実際の価値と、価格の見合わない格安商品を買うことは、搾取の加担に他ならない。このことに気が付いたとき、私は心の奥が痛む感覚に襲われた。

この映画に出てきた大首長をはじめとする権力者たちによる搾取は、私にとって大きな衝撃だった。泥水に腰まで浸かって砂利をふるいにかける労働者とは対照的に、豪華なソファに腰かけた彼が語るのは、「私のダイヤモンドだから、価格は私が決める」という言葉だ。彼の元で働く末端の採掘労働者たちは、日々の生活のために家族を養う事ができないほど困窮している。ダイヤモンドを見つけなければ賃金さえ支払われず、出資者のもとへ売りに行っても、難癖をつけて買いたたかれる。そのような状況で必死に働いている人が大勢いるなかで、一部の人間だけが甘い汁を吸っている。彼は、こうも言っていた。「選ばれた人だけが幸せになれる」と。その言葉は一種の真実を含んでいるのかもしれないが、それは搾取をしてもいい理由にはならない。私は、この言葉が首長の口から発せられたことに、恐ろしさと問題の根深さを垣間見た気がした。

他の点では、これらを規制すべき法が上手く機能していないのも、大きな問題だと感じた。機能していないどころか、労働者を守るための権利さえ、政府による搾取の温床になっている。出資者は賄賂を渡し、監視員を味方につけ、採掘権の規制をかいくぐって運営している。出資者もまた、自己の利益を追求して、労働者を搾取している。政府も、税金を正しく運用していない。売り上げから徴収し、採掘場の運営のために還元されるべき税は、定期的に支払われていない。これでは、いつまでたっても状況は改善しないように思える。長期的な目線がなく、目先の利益ばかりを追い求めていては、いつか立ち行かなくなる。いや、このように不正がまかり通っている現状は、上手くいっている、とはすでに言い難い。

基本的に、多くの利益を上げることは悪いことではないし、そのための努力自体は否定されるべきことではないと思う。しかし、物の価格は、労働者が安心して生活のでき

る水準で賃金が支払われるように設定されなければならない。映画を観ながら私は考える。ダイヤモンドはいったい誰のものなのだろう、と。原産国政府のものだろうか。出資者だろうか。首長だろうか。きっと、そのどれも違う。少なくとも流通過程において、ダイヤモンドは誰のものでもない。そして、その価値の恩恵は、流通に携わる全ての人がうけなければならないのだと思う。

ショーケースの中で輝くダイヤモンドは、誰の目から見ても、美しく価値あるものだろう。そして、その価値の後ろ側には、掘削労働者の懸命な働きも含まれている。それに正しくお金を払うことは、採掘労働者の働きに正しく対価を支払うことに繋がる。そのお金は、いつしか彼らの生活の質を上げることになるだろう。そこに至るまでの道筋は平易ではないだろうが、採掘労働者にとっての人権が、「ショーケースの中で光を浴びている、手の届かない商品」というもののままではいけない。私は、この映画を観て学んだことをもとに、現実的に私のできることをしていきたいと思う。高校生の私にダイヤモンドは買えないけれど、フェアトレード製品などによって、ダイヤモンドより価値のある、「人の人生」をより良くする手助けが、できるかもしれないからだ。

大学生部門　最優秀賞　苅屋拓海
～ダイヤモンドが通るべき道～

「ダイヤモンドの来た道」というタイトルを初めて目の当たりにした時は、「どうして擬人法を使っているのだろう」と、疑問を抱きました。しかし、この映画の内容をすべて観た今では、その理由が理解できる気がします。労働者によって採掘され、仲介人を通し、輸出業者のもとに渡り、そして最終的に観客の手元に辿りつく。その過程にはたくさんの人間の様々な思いが交錯していて、ダイヤモンドが人為的に生かされている様に感じたからです。

この映画を観て強いもどかしさを感じました。シエラレオネ共和国最大のダイヤ産地であるコノ県の人々の苦しい生活の実情がリアルに映し出されていて悲しくもなりました。採掘者は苦労して得たダイヤを出資者に結局は吸い取られ、反抗しても政治が絡んでいるダイヤ産業の闇の中にその声は消えていく。理不尽極まりないシエラレオネの現状に信じたくない気持ちになりました。もしも僕がシエラレオネに産まれ、映画に出てきた採掘者として生を受けていたら、どうしていただろうか。首長が言っていた「運があれば上手くいくし、運がなければ成り行きに任せるしかない。」という心ない言葉を、素直に受け入れることが出来るはずがありません。その成り行きの先には、学校に行けない、家族を養えない、もっといえば死んでしまうかもしれない、そんな残酷な結末が待ち受けているかもしれないというのに。他にも、採掘後の埋め立て料を政府に支払っているのに未だ一度として埋め立ててもらえたことがない、採掘所の監視員も結局は政治家が採用している、せっかく得たダイヤもギニア等に密輸されて正当な収益が支払われない。など、非常識過ぎる状況が浮き彫りになっていました。これはもう付け焼き刃で対処するのではなく根本からか改めて考え直し、全員が正面から真撃に向き合って協力していくしか解決の余地はないだろうなと思いました。言葉で言う程、簡単でないということは悔しいですが、理解しています。

「労働者への対価の支払い」という話を受けてふと思い出したのは、僕が今働いているスターバックスの取り組みのことです。ダイヤモンド採掘者と同様に、コーヒー生産者の多くも支払われる対価が低く十分な利益が得られていないということは知っていました。スターバックスはこの現状に風穴をあけるべく、フェアトレードを掲げて活動し、今では、九十九パーセントの倫理的調達を達成しています。その成功の影にはやはり力のある者の決断があったと思います。シエラレオネのダイヤモンド産業においても、政府の上層部、出資者が変わるしか希望はないと思います。しかしただ待っていてもそんな日は訪れるはずがありません。上意下達の現状を打解するのは相当な困難だと思います。しかし今こそ文句を言うのをやめて、結束し意見を突き上げていくべきだと思います。今、書いていることが綺麗事だという自覚はあるのですが、どうしても困っている彼らの未来に光を見出したいという気持ちになりました。

ここまでの複雑で深刻な問題ではあるが、きっと僕たちにも何か出来ることがあると思います。貧困の連鎖に歯止めをかけるための第一歩として、まずエシカルの意識を常に持とうと思いました。エシカルは「倫理的」や「道徳的」という意味です。この意識

はフェアトレードの実現を目指すに当って重要であると考えます。例えばフェアトレードと認証されているかをしっかり確認してその商品を購入する。これはたとえダイヤモンドに限らなくても、エシカルな意識を広げていくことにきっとつながると思います。最初はやはり小さな波にとどまってしまうかもしれません。しかし、どんどんその意識を共有する人の輪が大きくなっていき、みんなの共通感覚になることができたなら、いずれフェアトレードという新たな常識がこの世界に定着するのではないかと期待します。新たな常識の波がベルギーのアントワープまで届いて、ダイヤモンドの購入について顧客が採掘現場にいる人々の顔を思い浮かべた時にはじめて、新しい風が吹くのではないかと思います。ダイヤモンドと同じくらい透明な輸入ルート、そしてダイヤモンドに負けないくらいに活き活きと光り輝く現地の人々の目、これらの実現のためにフェアトレードの意識の輪を身近な環境から少しずつ広げていけたらいいなと思いました。

大学生部門　優秀賞　柳沢将伸
ダイヤモンドの来た道を見て

シエラレオネにおけるダイヤモンドの採掘には、多岐にわたる問題があることをわからせてくれるドキュメンタリーであったと思う。人力採掘による労働力とは見合わない賃金の低さが何より目立って見えた。いくらダイヤモンドを採掘しようが、国はまるで豊かになっていかないその状態は今もなお続いていることと思う。こういった現状の原因は管理体制の欠如であるとされていた。そのために地域への還元がなされずに貧困が途絶えなくなること、ギニアやリベリアの国境を接している国への密輸などが起こる。このことは監視員が役割を果たしていないことが挙げられ、現場をしらないものがこの役割につくことで、出資者が行う搾取が二層になって行われているようなものだと考えられた。管理体制がしっかりしていないことは輸出業者が現地からダイヤモンドを安く買い取ることにも繋がっているため、現地の貧困が途絶えないことの原因は何重にも重なっているものであると感じた。この負のサイクルを解消させるには管理体制をきちんと見直すことが要求される。そのため、政府は国を発展させるための長期的なビジョンをもつことが必要で、一時の利益に目を向けてはいけないとされる。

ダイヤモンドが紛争の際に資金にさせられていた過去を踏まえ、キンバリープロセス認証制度が誕生したことは多少なりとも進歩であったと考える。この制度にも対象の原石のみに絞られていたり、紛争の資金以外には全く関与していなかったりと問題はあるように思う。紛争という悲惨な過去からこういった制度が生まれたのならば、現在の採掘者の労働に対する制度が一刻も早く考えられるべきである。東南アジアにおけるバナナ、南米などにおけるコーヒーのフェアトレード、コーヒーについては近頃ダイレクトトレードといって中間業者を挟まない取引が行われている。ダイレクトトレードでは品質の良さが欠かせないものであるが、直接の取引による生産者の利益向上がより図れるという点と、品質向上をするための売買業者からのフィードバック、相談がされる点はシエラレオネでのダイヤモンド産業も見習えるポイントがあるのではないかと考える。一方でフェアトレードからシエラレオネのダイヤモンド産業が見ならえることは、組合を作り取引を行うことにより制度の効いた取引ができることだと考える、その組合に一人だけ儲けようと考えるような搾取する人間を入れないことは現状では難しく見えるが、過去に搾取が行われていた産業から得るものは多いのではないか。

さらに、ダイヤモンドを採掘した現場を埋め立てないことで水がたまりかが発生することから疫病が蔓延することや、そこへ人が転落し、おぼれてしまうことが問題となっていた。また、ダイヤモンドの見つかりそうな場所を手当たり次第に採掘することは植物の育つ環境を奪う行為である。また、埋めたてを行わないことで採掘後に農地として使用もできなくなってしまうことは土地を荒廃させていくことであって、環境破壊を促進することに繋がると考える。パイプ鉱床や漂砂鉱床の採掘をする地域（南アフリカ・南西アフリカ）には、大規模な機材を投じる必要があり、企業が採掘現場を管理していて、これらの企業はＩＳＯ１４００１（環境マネジメントシステムに関する国際規格）を取得し、ダイヤモンド採掘によって生じる環境への影響を持続的に改善するためのシ

ステムを構築しているようである。しかし、シエラレオネのように河岸での採掘の場合は採掘エリアを厳密に区切ることができないため、現場の管理が困難であることや、土地の所有権が不明確なことが多い。そのため土地を持続的に活用していこうというモチベーションが働かないのだという。ただし、ＩＳＯ規格には環境パフォーマンスの評価に関する具体的な取決めはなく、組織は自主的にできる範囲で評価を行うに留まっているため最善とは言えない。しかし、シエラレオネのように採掘後にほったらかしの状況に陥るよりは、採掘現場を仕切る人間がこういった取り組みにアプローチすることも必要になっていくと感じる。国だけが単体で管理体制を整えるよりは、売買業者やその他の企業など多くのアクターが協力し管理体制を布いていくことが今後のシエラレオネのダイヤモンド採掘には求められると考える。

大学生部門　優秀賞　佐々木雪乃
「ダイヤモンドの来た道　～シエラレオネ　採掘現場の声～感想」

私たちが、誰かへのプレゼントや自分へのご褒美など、他にも色々な思いを持って人々が購入するダイヤモンドであるが、そのダイヤモンドをどのように人が採掘し、その人はどのような国でどのような生活をしているのか、それを細かく知っている人はとても少ししかいない。私も、シエラレオネの国の人々が、貧困に苦しみながらダイヤモンド採取を仕事にしているということを知らなかった。いつも自分が買うダイヤモンドを、どのような人が取っているのか、どのような過程でダイヤモンドになっているのか、そのようなことを知っている購入者は少ないはずだ。

私は今回の映像を見て、まず色々な人がこの現実を知るべきだと感じた。父と母にダイヤモンドのことを聞くと、父はダイヤモンドについての知識が全く無く、母はテレビ番組で放送されていたドキュメンタリーを見て知ったそうだ。私たちが普段の生活の中で、「シエラレオネ」や「紛争ダイヤモンド」などの言葉を出すことは滅多にない。人々にとって「ダイヤモンド」とは、「高級感のある綺麗で美しいもの」というイメージがある一方で、その良いイメージを持つものが、紛争や戦争の引き金になっているとは思っていないだろう。現状を知り、受け入れてくれる人が少しでもいれば、シエラレオネの人々への支援を十分に行うことができる。

私はここで、ダイヤモンドの販売方法を変えることで、シエラレオネの人々に賃金を支払うことができるのではないかと考えた。採掘者を公式的に企業が雇い、採掘者と購入者をしっかりと結ぶ必要がある。ダイヤモンド販売の際に「このダイヤモンドの利益の〇パーセントは、シエラレオネの採掘者への支援金として送られます。」などの記述をすることで購入者は、「貧しい国を支援した」という優越感に浸る。また他企業との差別化を図ることもでき、貧しい国の支援に力を入れる企業が、圧倒的に支持を得ることができると考えた。販売戦略的になってしまうが、実際に森永製菓株式会社は、「チョコレート１つにつき、１円の支援金を送る」というキャンペーンを行ったところ、１ヵ月で約１３００万円もの支援金が集まった。このように、販売方法を少し工夫するだけで、シエラレオネの人々への支援になる。先ほどの私の意見にあるように、この方法で販売することで、シエラレオネの人々の現状が多くの人々に伝わるはずだ。

しかしそもそもダイヤモンドを生産することより、シエラレオネの人々が、貧困の暮らしからいち早く抜け出すことのできる社会を形成することの方が大切であり、そのことに多くの人々が気付き、１人１人がどうすればよいか考えることが、第一歩であると考えた。そのためには、現地の状況を把握し、マスメディアを使って世の中に発信することが必要である。少しでも多くの人に現状を知ってもらうために、利用することができる媒体はすべて使い、たくさんの人の関心を集めることができれば、生活支援や寄付などを大規模に行うことができる。

また私は、コノのダイヤモンド採掘を、観光客が体験できるような形にすることが良いのではないかと考えた。現在、海外旅行が流行しているが、コノのダイヤモンド発掘を体験型にして観光客を募ることで、コノ自体も有名になり、支援が今まで以上のもの

になるのではないだろうか。観光客に体験してもらうことで、ダイヤモンド採掘の大変さを知ることができるだろう。今は、SNS でその情報を世界中に発信するなど簡単にできる。ダイヤモンド採掘を仕事にしているシエラレオネの人々にとっては迷惑な話かもしれないが、世界中に情報が共有われることで世界を味方につけ、政府に不満を訴えることも可能だ。

最後に、今回このドキュメンタリーを見て、この状況を多くの人に知ってもらうことから、シエラレオネの人々への支援が始まるということを私は感じた。行動に移すことはなかなか難しいことであるが、「そうなんだ」と、そこで終わってしまうのではなく、まずは自分から発信することが大事である。そして、同じ意思を待つ人と一緒に行動に移し、それを見た誰かが影響される、といったように、連鎖で伝わる世界を目指すべきだ。

大学生部門　優秀賞　于佳彤（ウ・カトウ）
「ダイヤモンドの来た道～シエラレオネ　採掘現場の声」を見て思ったこと

この映画の最初のシーンは、暑い日差しの下に、多くの労働者が泥水の中に立って一生懸命石を洗っている様子だった。たった1ドルの賃金を稼ぐために、私たちが想像さえつかない重労働をしているシエラレオネの労働者だった。彼らはなんでこんなことをしているのだろうと考えていた時、カメラは現代ヨーロッパに切り替えた。きちんとした街並み、綺麗な服を着いている人々、そして高級店など、シエリレオネとは全く対照的な風景が目に映った。シエラレオネの人は店で売られているキラキラしたダイヤモンドのために必死に働いているとわかった。ダイヤ産業の末端の労働者はまるで現代版の奴隷のようだ。ダイヤモンドは地位、権利、富そして永遠の愛の象徴として消費者の手に届くけど、一見美しいダイヤモンドの背後には如何に残酷で非人道的な話があるのか知らなかった。賄賂、汚職、環境破壊および人権侵害..... ダイヤモンドが消費者の手に届くために、こんなに汚いことが起こっている。

この映画を見た後、私の心は落ち着かなかった。個人的には、なぜダイヤモンドは永遠の愛を意味するのかが理解できない。それでダイヤモンド業界についてもっと調べたところ、人間の醜さと愚かさを認識し、ちょっとショックを受けた。すべてが金銭的利益と欲求によるものからだ。ダイヤモンドは見事な詐欺にすぎない。私が調べた限り、永遠の愛の象徴も、「4C」評価標準も、ダイヤモンド商人が自分の利益を確保するために捏造したものだ。さらにばかげていることに、毎日飢餓と死亡に直面している人がいる中、素晴らしく恵まれた環境にいる人々は、売り手の美しい嘘を信じることを選んだ。数万人の血と涙を凝集したダイヤモンドを、愛の象徴として指につけている。そんなダイヤモンドの売買がなくても良いのに、商家の貪欲と消費者の愚かさと欲求のせいで、多くの人が人権侵害で生活が困窮している！

ダイヤモンドに関する法律の制定や利益格差をなくすなどより、私たち消費者を始め、できるだけ天然ダイヤモンドを買わないようにして、理不尽なダイヤ産業を縮小させた方が効率的ではないかと思っている。シエラレオネは豊富な自然と鉱物資源に恵まれているが、それで繁栄したどころか、ダイヤモンド鉱山が多いため災難を引き起こしていた。採掘活動はシエラレオネの美しい自然環境を壊している。2017年8月、大洪水と土砂災害が首都フリータウンを襲い、千人以上の被害者が出た。全ての苦難を引き起こした原因がダイヤモンドにあると言っても過言ではない。もし人々が自分の考えを変えたら、ダイヤモンドの採掘の必要がなくなる。それで、ダイヤサプライチェーンの末端にいる人々は抑圧から抜け出せる。シエラレオネはダイヤから得る目先の利益から目をそらし、豊富な自然資源を適切に利用して、長期的なビジョンを持って自国の経済発展に適した新しい産業を探すことができるだろう。それに、天然ダイヤと比べて費用が高くない人工ダイヤの技術も次第に進歩してきた。そのため、消費者たちはわざわざ環境を破壊し、労働者を搾取して得られた天然ダイヤモンドを買う必要はないと私は思う。

いきなり無駄にダイヤモンドを買わないように呼びかけるのは無理そうに見えるか

もしれないけど、これは十分実施可能だと信じている。およそ20年前の中国の東北地方では、テンの毛皮コートが流行っていた。女の人はみんな、富と良い生活の象徴として少なくとも一点の毛皮コートを持っていた。しかし毛皮コートの後ろには、残酷に殺された数万匹の動物である。良心的な人々はこんな事実を新聞やテレビCMなどで暴露し、「売買なしでは殺害はない」と呼びかけた結果、今は毛皮コートの売買はほとんどなくなり、動物の殺害も少なくなった。シエラレオネのダイヤモンドの場合も同様に、売買しなければ、ダイヤに関する全ての問題もないはずだ。

ダイヤ採掘出資者や輸出業者達は人道的な感情がないと言われるが、ダイヤチェーンの再頂点にいる私たちには人間性があるのではないか？ダイヤ産業の残酷な事実を多くの人に知ってもらい、ダイヤモンドは愛情の象徴として如何にでたらめな物だと認識してもらったら、無駄なダイヤの売買が少なくなるだろう。そうなったら、労働搾取と人権侵害で苦しんでいる120万人が理不尽なダイヤサプライチェーンと貧困の連鎖から抜け出せる。なお、世界の他の国と連携して、工場などを立てて新しい職場を提供することで、シエラレオネの経済を原石採掘業メインから農業と工業や手工業に変わるのが失業危機の解決策の一つとして考えられる。現代版の奴隷の数とダイヤモンド鉱山の採掘による環境へのダメージを減らし、長期的な持続可能な開発はきっと達成できると信じている。

もちろん、原材料産出国での現代版の奴隷制度はシエラレオネのダイヤモンド産業に限らない。他の国の他の産業でも似たような状況になっている。中南米やアフリカなど自然資源の豊富な国々ではチョコレートやコーヒーなどの産業でも労働搾取が起こっている。私たちにできることは、無駄な消費を抑えて、理不尽な業界が労働者を圧迫する余地を残さないことだと思う。

持続可能な開発の本当の意味は、人々が明晰な頭を保ち、自分が本当に必要なものは何かを認識し、理性的な消費から世界の幸福に貢献し始めることだと思う。また、無駄な消費をできるだけ控えて節約した分のお金で環境と人間に良い商品を買うことの重要性を改めて認識した。例えばダイヤモンドを買わなくて、ビニール袋ではなくエコ袋を選び、環境に優しい生分解性或いはリサイクル可能な材料を買うことが世界の幸福に繋がる。

映画を見て、以上のことは些細だけど、世界の美しさと持続可能な発展を維持するのに不可欠だと深く感じた。

大人部門　最優秀賞　辻本梨紗
ダイヤモンドの輝きの向こう側。

「私は、人間というものは、たとえていえば、ダイヤモンドの原石のような性質を持っていると思うのです。すなわち、ダイヤモンドの原石は、もともと美しく輝く本質を持っているのですが、磨かなければ光り輝くことはありません。」

日本の実業家松下幸之助の名言である。しかし、シオラレオネのダイヤモンドを発掘している労働者は発掘している石ころが磨けば光り輝くことすら知らない。

私は結婚式場で働いており、ダイヤモンドはほかの人より身近なものだ。新郎新婦が違和感のある高価な二人の愛の証を左手の薬指に付け、揚々と結婚式の準備を進めている姿は何とも言えない気持ちになる。彼らが幸せ絶頂の時にダイヤモンドの原石がどのように発掘されているか知らないだろう。嬉し涙の先の輝きの先には血の滲むような手作業を経て一日もろくに過ごすこともできない賃金しか得ていない。私は、新郎新婦が嬉しそうに眺めている結婚指輪の奥には何とも言え難い悲劇があるのだと映画を観て実感した。しかし、私はシエラレオネの現状を知らないまま購入する新郎新婦が“悪人”には思えない。

ダイヤモンド発掘者が充分に生活していくためにはフェアートレードを行うことは必要であると強く感じた。きちんと取引しなければ、彼らはダイヤモンドの価値を知ることすらできないのだから。

このドキュメンタリーを見ていくと私は証言者のズレを感じた。ダイヤモンドの原石売買担当のヤン・チョイは現地の発掘を行っている、作業員や仲介人はダイヤモンドの価値を熟知しているといっていた。経験もあるので事務所に直接販売もしているといっていた。彼は公正に取引を行っているのだと思っているようにも思えた。しかしながらダイヤモンドの発掘をしている人々は「ダイヤモンドの価値は分からない。」とみな言っていた。もし、現地の人々がダイヤモンドの価値や知識を得ていれば“悪人”も出てこずにもっとマシな生活を送っていたのだろうか。

発掘者と原石売買担当者、立場も違うが住んでいる国や文化が違うことでズレが出てきてしまうことがある。売買担当のヤンは、しっかりと地元の住民の話や内面の部分まで把握してフェアートレードを行っているか疑問に思った。しかし私は映像を見た限りヤンも“悪人”だとは思えなかった。彼も一生懸命に少しでも石ころが高価になるように努力をしていた。

フェアートレードを行うとすれば、高くなってしまうので買い手が不利になってしまうので知識や価値を伝えずに取引を行うことが多い。実際に今私が着ている安物の服も大企業が搾取した安価な人件費で創った服である。

調べてみると、ファストファッションを取り巻く世界にも裏側はあったのだ。取り扱っている工場が火災により多くの命が犠牲になったり、ダイヤモンドの価値を知る前に過労で死んでしまったりすることも知った。私は知らない間に安価な布“悪人”を被っていることに気づき後悔した。目につきやすい安くて簡単に手に入る店やデパートで買うのではなく、「服が作られた過程」を知ることが必要だと感じた。直接作成者の元へ行くことも必要ではあるが、彼女たちの生活や労働環境を文献やインターネットで調査することで、知識を把握

できるのではないだろうかと思った。私も知らず知らずのうちに“悪人”になっていたのかと痛感してしまった。

ダイヤモンドも同じことが言えないだろうか。

ダイヤモンドを発掘の際に不慮の事故で命を落としてしまったり、けがをしてしまい働くことができなかったりしてしまうこともある事実を知った。危険を冒してまでシエラレオネの人々は働いているのに、低賃金はといかがなものか。映画を観る限り“悪人”が誰だか分らなかった。強いて言えば感情も言葉も発することができない石ころではないだろうか。

私たちは目の前の利益や今後の動向にしか目に行かないが、ダイヤモンドにしろ、ファストファッションにしろ「向こう側」をしっかりと見つめ作られた背景や発掘された情景を思い浮かべる必要がある。新郎新婦が嬉しそうに眺めているダイヤモンドはどのような想いで発掘されたのだろうか。

今回この映像の中で最終的に感じたことは発掘者と買い手の価値観の違いすなわちズレである。発掘者は高い賃金を得たいのにダイヤモンド買い取りを行う人には伝わっておらず、ダイヤモンドの買い取り人は発掘者も公正に取り扱っているように思えた。しかし、これらの行き違いで買い取り人が“悪人”を決めつけるのは違うと思う。発掘者と買い手が密に近づくべきだと思った。

私はダイヤモンドの輝きの向こう側には決して伝えることができない涙もあるのだと感じた。松下幸之助の名言のようにダイヤモンドの原石が無駄のないような世界になるべきだとこの映画を観て強く感じた。

大人部門　優秀賞　小林茉樹
ダイヤモンドの新しい道

最初に映ったあのダイヤモンドを洗っていた手の持ち主は、今この瞬間もあの手でダイヤモンドを洗っているのだろうか。その手には、報酬がいくら渡されるのだろうか。そして彼は何人の家族の生活をあの手で支えているのだろうか。三十分強の映画を見終わった私の頭には、そんな疑問が沸き起こっていた。

ダイヤモンド一粒が発掘され、その美しい一粒を購入する人間の手にわたるまで、本当に様々な人々が関わっている。この三十三分でその現実を目にすることができた。しかしその現実は全く美しいものではなく、その不幸の原因は、それぞれの立場以外の人たちのせいだ、私たちのせいではないという主張が並べられていた。この責任転嫁のリレーこそが、この現実を作り上げているのだろう。

「仕方がない、自分のせいじゃない。」

この一言が、現状を改善しようとする力を失せさせるのだ。

かといってこの現実が、彼ら自身が作り出した不幸であるわけではない。こうせざるを得ないと言わなければならない社会が存在する事こそが一番の問題であり、ダイヤモンドを購入する人間が知らなければならない事実である。では、この現実はどうすれば改善できるのだろうか。今起こっている問題が過去の話となり、あのダイヤモンドを洗う彼の手に、生活する分に十分な報酬が渡されるようになるにはどうすればいいのだろうか。

日本で生活を送る人間が、ダイヤモンドと関わる場面はやはり購入というステップからが多いだろう。では消費者という立場が起こすことができるアクションは何だろうか。まず確実に言えることは、

「知らなかった。」

の一言を言うことのないようにする事だろう。幸いな事に私が現在この映画のおかげでその一言を言う事は無くなった。しかしこれで終わって良いわけではない。この事実を私以外の人に伝え、問題を共有し、問題として複数人で捉える事によって、ダイヤモンド一粒の重みを、その一粒に付けられたその値段以上の価値を知ることができるのではないだろうか。

次にこの事実を知った私が行動しなければならない事は、この問題を他人事のように

「難しいね。」

の一言で終わらせない事である。富の象徴としてダイヤモンドが存在する理由は、その象徴を求める消費者の存在である事は紛れも無い事実である。大衆の欲望が作り上げたこの現実を、自分の問題ではないと大衆が言い放つのはとんだお門違いだろう。たとえシエラレオネがどこに存在しているかを知らなくても、あの手の持ち主と会ったことが無いとしても、私たちは売買という形で繋がっている。その事実を忘れてはならない。この問題は、私たちの問題なのである。

ではこの次に何をしなければならないか。それは明白である。

「じゃあ私に何が出来るだろう。」

と頭を捻る事である。具体的に活動を実施しているNGO及びNPOに寄付をする、課題解決のために研究を重ねる研究者を支援する、採掘現場の作業員の生活向上をシエラレオネ

政府に訴える署名活動をする。今考えただけでも様々な方法が存在している。そしてこれを、この場で書いて終わりではなく、実際に行動に移す事ができて初めて、一人前に意見を述べられるステージに立てるのではないか。

あの土を掘る手、バケツから笊に移す手、そしてそれを洗う手が当たり前に彼等と彼等の家族が安心して生活が出来る報酬が渡される世界にしたい。そしてそれが叶えられない理由を責任転嫁のリレーで積み重ねているのであれば、その責任転嫁のリレーのアンカーになるのではなく、そのリレーを止め、新たなダイヤモンドの辿る道を作る人間の一人に、私はなりたい。

大人部門　優秀賞　グエン　タイー　ハー
利益のみを追求する

シエラレオネ・コノ県でのダイヤモンド採掘は、環境及び社会に大きな悪影響を与えていると考える。

第一の問題は、ダイヤモンドの採掘による環境への影響である。ダイヤモンドの採掘は、土壌及び水質などに悪影響を与える。

ダイヤモンドの採掘プロセスは、採掘の後に残された深い人工池が潜在的な危険性をもたらす。ここに落ちる事は住民に危険であり、よどんだ水は蚊の生息地である。人間に様々な病気を引き起こしやすい。さらに、ダイヤモンドの採掘は土壌侵食を発生する可能性がある。そのため、干ばつやその他の自然災害はさらに深刻になり、農作物も栽培が難しくなる。

鉱石処理後の廃水が非常に汚れ、鉱山地帯だけでなく周辺の川や湖沼の水源を汚染している。さらに、多くの有毒化学物質や重金属が採鉱プロセスで排出される。これらの化学物質や重金属は地表水及び地下水を汚染する恐れがある。汚染された水は生活に深刻な影響を与え、様々な難病を発生しやすい。

第二の問題は、ダイヤモンドの搾取の社会的影響である。ダイヤモンドは非常に貴重な商品のため、誰にとっても魅力的である。このため、社会に悪影響を及ぼす主な要因として「利益のみを追求する」ことがある。

ダイヤモンドサプライチェーンの最下位クラスから始めて、採掘労働者は盲目的に利益を追った。ダイアモンド採掘は農業より収益をもたらしやすいため、農業のみにより生活する農家は非常に少ない。しかし、このビデオを通して、ダイヤモンド採掘は不安定な収入しかもたらさないことが理解できる。採掘労働者は常にダイヤモンドを掘れるわけではないため、生活は不安定である。

次にダイヤモンド採掘権所有者は、採掘労働者よりも大きな利益を受けるが、ダイヤモンドの実際の値と比較して受け取る利益はごくわずかだ。最大の利益を得るため、採掘労働者の力を搾取しなければならない。次に、仲買者は採掘労働者より賢いため、ラフダイヤモンドの販売価格から仕入れ価格の違いを作る事でお金を稼ぐ。従って、ラフダイヤモンドを売買するため、採掘労働者に支払う賃金が低いほど、多くのお金を稼げることになる。

この下層階級である採掘労働者は、ダイヤモンドの真価についての知識と理解を欠いているため、少しの利益しか得られない。しかし、彼らはいまだに透明性欠如による汚職の犠牲者である。

社会における主な問題はシエラレオネの当局に存在する。政府はダイヤモンドの価値を理解しているものであり、権力を持っている。採掘権認可及び税金徴収並びに不透明な鉱山管理者を募集する事により賄賂を受け取る。しかし、その利益は地域開発には使わない。さらに、弱い採掘管理のため、密輸及び無責任な搾取を派生する公算が大きい。

上記の問題より二つの主な解決策を提案する。短期かつ一時的な解決策は、環境への影響を克服し、現在シエラレオネの住民の生活質を向上する事である。次に、将来の環境を保護し、住民の知識と意識を向上させるための長期的な解決策がある。この解決策として、教育の重要性を強調したいと考える。

現時点では、鉱山採掘地域の状況は深刻に破壊されているため、これらの地域をリハビリする必要がある。土地の改善により人工池からの危険性を最小化し、人々が農地を耕すための条件を作り出す。次に、鉱石採掘による現在の環境汚染を克服するべきだ。さらに、病院、学校、食物やきれいな水が整った生活のため、インフラが必要だ。この目標を達成するために、現地で活動する組織を支援することは非常に重要である。その組織には資金援助と実施方法指導をするべきだ。さらに、多くの組織と世界中のコミュニティの協力が欠かせない。

これに加えて、教育が重要な役割を果たすという長期的な解決策がある。以前にも述べたように、「利益のみを追求する」ことは、社会に悪影響を与える要因がある。ダイヤモンドの価値とダイヤモンド採掘の影響を理解するためには、労働者が教育を受けることが必要になる。現在のようにダイヤモンドを採掘し続けるならば、貧困撲滅できない事を認識する必要がある。ダイヤモンド採掘は生活に重要であるが、採鉱プロセスでの環境保護とリハビリの感覚は同様に重要だ。さらに、農業生産など他の生産事業を拡大するべきだ。現在、労働者はダイヤモンドの以外の産業がないため、生活はダイヤモンドに大きく依存している。他の産業を発展させるため、訓練及び技術の移転が効果的である。

さらに、教育は労働者の知識を向上させ、政府を清潔且つ透明にする強力な武器となる。その後、政府は自国が持続的に発展するという意識とビジョンを持つことが重要な要素である。政府はビジョンを持つ事により、新たな改善を実行しやすい。この解決策では、政府が不可欠な役割を果たす、他の製造業の拡大の重要性も強調したい。第一歩として、政府は労働者に農業生産のような他の事業の発展を奨励するべきだ。さらに歩むと、ラフダイヤモンドの輸出はダイヤモンドの加工及びデザインと比較して大きな価値をもたらさない。自立できるため様々な技術の導入や人材教育が必要である。これを通して人々に利益をもたらすと同時に多くの雇用を創出する産業になる可能性がある。

最後に、シエラレオネ及び貧しい国々の問題を克服するため、政府の腐敗への反対の声と世界コミュニティの支援は不可欠であることを強調したい。

英語部門　最優秀賞　John Lee Candelaria

English Category　Winner

“The Curse of Sierra Leone’s Diamonds”

A man’s hardened hands gently sift through a wooden sieve filled with soil and water. He is looking for an elusive piece of rock that could assuage several days of backbreaking work. While his supporter provides food and tools, he is only paid when a diamond is found. While these diamonds end up in the hands of the moneyed few, the irony of it all is that it is not the miner who gets to reap the rewards.

This is the reality that Roy Maconachie and Simon Wharf explored in the documentary “Voices from the Mine”—an account of the journey a diamond takes from mine to market, from pit to finger—and the exploitation and human rights violations that miners experience in what has been described as “a system of debt bondage and a contemporary form of slavery”.

The documentary features the mystery of Kono District, the largest diamond-producing area in Sierra Leone. The district is blessed with diamonds scattered in its riverbeds but is cursed with institutional inefficiencies, corruption, and revenue mismanagement that has hindered the community’s development. The miners see diamond-mining as their only hope for escaping poverty, and yet, they are also aware that they are being exploited by a grim business that not only have failed to bring revenue to the country but have also resulted into devastating conflict in the country in the past.

The miners are victimized by the semi-feudal relationships resulting from the mining business. The documentary traces this relationship from the chieftaincy system, where paramount chiefs are considered as custodians of the land, which gives them power in the artisanal diamond mining sector. It seems that in every stage of the industry, there are difficulties that put the miners at a direct disadvantage, and neither the local chieftaincy system nor the government can provide relief to the workers who experience the brunt of injustices.

To begin with, government oversight and regulation of the industry is stifled by bureaucracy. Many supporters operate outside government control to maximize profits, since licensing, certification, and surface rent are expensive. Some may even choose to pass the buck to the workers. While it is true that the government undertakes monitoring, there is a question on its extent, competency, internal politics, and vested interests.

From supporters, the dealers and brokers also complicate the system further. They exist beyond the regulation of the state, and Sierra Leone’s porous borders have enabled an informal economy of diamond trading to thrive, to the disadvantage, once again, of those in the bottom

rung as well as the government, since neither receive benefits from diamond smuggling.

The diamond mining sector has also negatively affected the environment. While it is a policy that mined areas must be rehabilitated afterward, the lack of monitoring and enforcement have not safeguarded the environmental integrity of the land. The continuous practice could lead to disasters, such as what happened in Angola, where the severe impacts of diamond mining led to the forced relocation of local populations.

It is apparent that at the end of the day, the losers are the local communities—those who do the manual, backbreaking work; those who are exploited for cheap labor; those who will be affected by the environmental impacts due to poor and unsustainable mining practices.

Sierra Leone is also being robbed of the opportunity to develop, especially since it is still rebuilding after experiencing a difficult period of war. Its take in the diamond industry is hardly enough to impact its progress.

A dialogue between the bottom and the top—the local communities and the government—must be the centerpiece of the reforms that the industry needs. The government and its policymakers must listen and understand the stark realities of the industry at the ground level since it is evident that artisanal mining will remain as one of the country's leading industries.

The world must also take notice of how the world's diamond industry has remained informal and unsustainable since the very beginning. The market for diamonds has enabled the persistence of the highly informal and unregulated industries in Sierra Leone and in the rest of Africa, yet the market seemed unperturbed by the exploitation that miners and laborers experience before the valued piece of rock reaches the glitzy racks of jewelry shops in the United States, Europe, and the rest of the developed countries.

It would be rather tricky and time-consuming to change the way consumers value diamonds. The more proactive step would be to continue to shine the spotlight to the problems of diamond mining, especially in Africa. Responses, both global, local, and national in nature, could safeguard the interests of the miners and laborers.

Science has proven that diamonds are not forever. Hopefully, collective global and local action can ensure that the exploitation of miners in Sierra Leone and the rest of the world will not last an eternity.

英語部門　優秀賞　Harsh Vemuri

English Category Second Place Winner

“A sign of wealth, a sign of strife”

Diamonds, seemingly for the longest of times they have been both a representation and a source of wealth. For millennia the most powerful kings and queens have adorned themselves with these stones to pronounce their status and power over others.

After watching the documentary,”Voices from the mine: Artisanal diamonds and resource governance in Sierra Leone”, I felt that there are two main issues in the mines of Sierra Leone. By far the largest problem is the lack of wide spread governance and enforcement of law.

Currently, diamonds are a large industry in many African countries, however the diamond industry was first started during the European colonization of Africa in the late 17th and 18th century. Many Europeans nations scrambled to Africa to extract large sums of wealth in the form of metals such as gold, silver and minerals like diamonds. The actions of these European nations caused the destruction of local legal and social institution, intern putting the local people in salve like conditions. I believe that the actions of the European powers in colonial times is what has caused the current situation. In addition to this the spread of diamonds as a consumer good in the recent decades has caused western corporations to scoop up diamonds indiscriminately from shady market places.

I believe that the main cause for the situation in Sierra Leone is multi-generational poverty. Looking at the situation, where governments and citizens are both aiding in creating suffering, it may be easy to think that they have no inclination to resolve the issues confronting them. However, if the population lacks basic education due to crushing poverty, it will be difficult for them to form labor unions or effective police forces. In addition to this poverty creates a sense of desperation. When desperation sets in, it becomes difficult for people to make long term plans and makes communities scramble for small amounts of income.

I believe that there are three main ways in which this situation can be resolved.

The first is a universal tracing system to be implemented in the diamond industry. If the large-scale diamond vendors like DeBeers commit to a single system where both the supply and demand can have a single, efficiently regulated market place, it will make it much easier for consumers to find out how and where diamonds, which they are buying, are being produced.

The second is the implementation of macroeconomic policies to reduce poverty. If the regulation for diamonds suddenly becomes more stringent, it will cut off whatever source of income the

mining communities currently have. To help in the large-scale advancement of these communities, there must be opportunities for employment and education for people to be able to move up the social ladder. In addition to social development, good economic policies will help the mining industries too. Artisanal mining is and extremely inefficient and labor intensive. If there is wealth in the society, the miners could buy equipment to make their mining operations more efficient and profitable.

The third is a digitization of government operations in diamond producing nations. The cold hard fact is that most of the governments in diamond producing nations are extremely corrupt. Much of the wealth that is generated through the production of diamonds ends up, not in the hands of the workers working the mines, but lacing the pockets of local politicians and land owners. Just intruding more policies will not bring real change to these institutions because the local governments themselves do not have any will to clean up their act. The implementation of digital governance system will help alleviate the system of any human hands.

I think that these policies will help pull many people out of poverty and clean up the diamond trade. Businesses cannot be in charge of regulating themselves, the private sector needs proper regulation and oversight.

Many of the problems that mire the diamond trade stem from the colonial ages. The hard issue to confront is that many of the problems from those days still persist relatively unchanged. The rich world still buys diamonds with little to no care for the people who produce them. Adding to this the growth of nations like China and India has made demand for diamonds soar higher than it has ever done before, putting even more strain on the producers. There must be more zeal in the market to reform the actions of the diamond market. The diamond trade is a completely demand centered market. If there is enough demand for conflict-free, fairly priced diamonds the supply will follow. Consumers must try their best to source diamonds from known suppliers. Governments in diamond producing nations must do a better job at enforcing laws and implement better governance.

There also is a need for a moratorium on the whole concept of diamonds as a product. The only reason that diamonds have such great value is because companies like DeBeers marketed as a once in a lifetime jewel. Essentially diamonds have no value, even more, diamonds can now be created in factories. We must rethink how we the consumers value the product and if that value is greater than the destruction the industry brings upon people who produce them.

英語部門　優秀賞　Afzal Muhammad Tauseef

English Category Third Place Winner

"A Sad Story of African Diamonds"

Diamonds are a symbol of commitment and strong affiliation. They also represent a good social status and often regarded as a symbol of wealth, but not for the ones who actually extract them from the mines. Poor diamond miners of Sierra Leone, who are working in adverse conditions, getting paid with one of the lowest wages if compared to the rest of the world, are not aware of any of the symbolic significance which diamonds carry. They are only interested to earn their livelihood and make their families and their own future secure. The mining industry in the country is full of corruption, nepotism and lack of facilities. The miners are not aware of actual price of the diamonds they extract, and due to the presence of middle-men in the process of extracting and selling the diamonds in international market, their earnings further decline. Government has not established a fair trade system, and has failed to provide the facilities to the mining communities. For mining diamonds, the miners are totally dependent on the "Supporters" who are individuals providing the investment and wages for miners. Extracted diamond by miners go to go to supporter, which then hands it over to the broker. The broker takes that diamond to the local dealers, who are connected to the international buyers. The price negotiation process is weak because of the lack of awareness and education right from the start till the end, hence the real value of the diamond is not known by the miners. As a result, average daily wage of a miner is 2$ a day, which is one of the lowest in the world. Miners also get affected by the changes in supply and demand of the diamonds in international markets, as a slump in demand during past few years caused thousands of miners lose their jobs. Most of them started to adopt to the occupation of agriculture, but the pay rate is almost same for them.

Kono district in eastern part of Sierra Leone is the first and biggest region where the diamonds were discovered during the 1930s. This region is the mining hub and big number of mining communities are living here. Government made a commitment to spend a ratio of revenue generated through diamonds on these mining communities, but the poor living conditions of the miners and their families are a proof that Government didn't fulfill its commitment. Government collects 3% of the value of diamond as its revenue from miners and it made an agreement to spend 0.75% of that back on the mining communities for their development, education and health, but due to the long standing corruption and bad governance, there is no any development took place in the mining communities. Another important matter of concern for the miners is the issuance of mining license in the country. Huge investment is required to obtain the license, and poor miners cannot do it on their own. The government is responsible to issue the mining license on the basis of fair deal, but corruption and nepotism often kicks in, giving favors and advantage to the people who have vested interests. The exploitation deepens with the presence of big international players who are capable of bribing the government and officials heavily. This also affects the process of

scrutiny and inspection during the mining operation. The government and officials put a blind eye on the influential people whereas they take strong actions against the weak mining groups in case of violations of law. Another biggest challenge faced by Sierra Leone is the environmental destruction caused by Artisanal Diamond Mining as the rehabilitation of the land is often committed by the mining groups and government has incorporated various laws for that, but everything seems to be present in papers only. The lands destroyed due to the mining process are not reclaimed, and as a result, the forests and green land is decreasing in the country. The abandoned pits which were left unfilled after mining, start collecting the human and animal waste along with water, causing the ground water contamination, leading to the spread of health hazards in the country. There are even independent reports available which suggest that not a single piece of land is ever rehabilitated by government or anyone else.

Sierra Leone faced a worst 10 year long civil war in which thousands of people died and millions were displaced. The country is at peace from past many years now, and International community has helped and provided the heavy monetary aid to the country for rehabilitation and recovery, but due to the lack of will and corruption in higher ranks, the government has failed to invest in development and recovery of its people. It is about time that international community play its role to make the government accountable for its expenditure and make sure that the common people are benefitted. The mining industry will also flourish if the miners and their families will feel more secure. It is also the responsibility of the international players and companies involved in the diamond trade to provide fair price to the miners for the diamonds they purchase, and take corporate social responsibility initiatives to develop the mining communities in Sierra Leone so that the country will not go down to the path of conflict again.

ドキュメンタリー短編映画「ダイヤモンドの来た道　～シエラレオネ　採掘現場の声～」
映画感想文コンクール　入賞作品集
発行　特定非営利活動法人　ダイヤモンド・フォー・ピース　2019 年 12 月

【本作品集に掲載されている写真について】
本作品集には、当団体が著作権を持つ写真及び著作権者から使用許可を得た写真を掲載しています。本作品集に掲載されている写真の改変や二次利用を禁じます。

【問い合わせ先】
特定非営利活動法人ダイヤモンド・フォー・ピース
〒247-0007　神奈川県横浜市栄区小菅ケ谷 1-2-1
地球市民かながわプラザ　NPO などのための事務室内
info@diamondsforpeace.org

本作品集は、一般財団法人　日本国際協力システム NGO 支援事業助成金により発行しました。